

するためには、身分關係のために極めて低い水準に墜入
 つけられてゐる部落勤勞大衆の植民地的生活状態を高
 めるための諸要求、即ち一切の文化的、經濟的部落施
 政、就職、賃銀その他労働條件における差別待遇の撤
 除、職業、住居、婚姻等一切の市民的自由等々を獲得
 するための闘争を組織し、成就せねばならない。殊に
 部落民に對する差別概念を助長する一の要因となつて
 ゐるところの、部落勤勞大衆の極めて低い生活状態
 を引上げるための文化的、經濟的諸施設を獲得する闘
 争は、身分闘争の主要な、本本的な闘争である。それ
 は部落勤勞大衆の日常生活の利害關係と直接結びつく
 と同時に、身分關係の主柱であるマルジョア、地主的
 階級主義政府に對する直接の闘争として發展する。こ
 の要求條件の闘争を組織し、成就することによつて廣

汎なる部落勤勞大衆を階級闘争の一部分としての身分
 闘争に動員することから出来るのである。然るに従來水
 平社は身分闘争のほんの限定的な差別事業に對する闘
 争を、しかも本平社といふ一つの結社の仕事として固
 定化させたため、身分闘争を大衆闘争として擴大させ
 ることが出来なかつた。

かくの如き闘争の固定化と組織化を改め、再び新に身
 分闘争を眞に大千の部落を基礎とし、廣汎な部落勤勞
 大衆を組織し直す爲め、大衆闘争の形態である「部落
 民衆會活動」の戦術を採用されねばならぬ。「部落
 民衆會活動」は決して革新しく誰かの頭腦から考案
 されたものでなく、また理論のみの所産でもない。そ
 れはすでに各地のあらゆる階級において嘗て實踐され
 てゐる大衆闘争の形態である。例へば奈良縣に於て本